令和6年度　大田区立志茂田中学校　自己評価　報告書

○　本校の概要

〈出身小学校〉○志茂田小　○新宿小　○西六郷小　○道塚小　○仲六郷小　他
〈学級数・生徒数〉通常級　15学級（各学年5学級）、特別支援学級　4学級　　全校574名（令和6年10月1日現在）
〈生徒の様子〉○校内に活気があり、何事にも一生懸命に取り組む姿勢がある。素直で優しい気持ちの生徒が多い。○日々の授業に対する態度は真面目である。○学校行事や部活動などの特別活動に一生懸命に取り組む生徒が多い。
〈地域の様子〉○大規模な繁華街に隣接しているが、本校の地域は静かで教育環境の整った落ち着いた住宅地である。○地域住民は地元愛が深く、地域ぐるみで子どもたちを温かく見守っている。○保護者や地域は、学校に理解を示し、大変協力的で様々な面で支援してくれる。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
生涯予測困難な時代を生き抜く力の育成を目指す	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	〈保護者及び生徒対象のアンケート調査を実施〉 4：問題解決力、他者との協働、情報活用能力に関する肯定的な回答が80%以上 3：問題解決力、他者との協働、情報活用能力に関する肯定的な回答が70%以上 2：問題解決力、他者との協働、情報活用能力に関する肯定的な回答が60%以上 1：問題解決力、他者との協働、情報活用能力に関する肯定的な回答が60%未満	4：80%以上 3：70%以上 2：60%以上 1：60%未満	4	目指す学校像「生徒一人一人の個性を開花する学校　～すべての子供たちの可能性を引き出す～」を保護者会等で保護者、教員、生徒へ周知した。小学校での教科「おおたの未来づくり」における学び方を生かし、総合的な学習の時間を中心に美術科、技術・家庭科において製作や実習の楽しさを体感させ、ものづくり教育・学習フォーラム」等の遠会行事や作品発表会での発表に向けた取組に加え、外部と連携したものづくり教育（STEAM教育）を充実させ、本区のものづくり産業の活性化に貢献する人材の育成を図った。 各教科等で情報を使った授業を生かす常化し情報処理能力を高める指導や話し合い活動による自己表現と他者理解の向上に努めるとともに論理的・科学的な思考力や表現力育成に努めている。今年度も、以前の様に多くの保護者、地域の方々の参観のもと運動会・文化祭等の学校・学生行事が実施できた。運動会や文化祭では生徒の自ら考え判断する力を養い、自主性を重んじるような計画、実行委員を中心に目標に向かってクラス一丸となっての取組を通して連帯意識や達成感、自己肯定感の育成を図った。 情報活用能力を身に付けさせるための全体計画を作成・実施し、生徒が一人1台学習用タブレット端末をはじめとするICTの上手き使い手」となれるよう、おおたICT教育センター機能を活用し、生徒の情報活用能力を高めるとともに、計画的・継続的なネットモラル教室を開催したり、「おおけネット通信」を活用したりするなどして、生徒、保護者、教職員に情報モラルを浸透させている。	A	11	・セブンイレブンと連携して食品ロスの問題について探求的に学ぶなど先進的な取組をスタートさせていた。 ・生徒に自主性、主体性が育っている。 ・教員の方々が非常に熱心に指導されていると思います。この様な資料の送付に関して、メール等で送付して事務方の省力化を検討してください。見る側も字が小さく見えづらい状況です。 ・ICTスキルを身につける、STEAM教育にカを入れる等々、まったく的を得た適切なもので、先生方のご努力も感じにある。バーチャル空間の情報の真贋を見極める教養、リベラルアーツの学習もよろしくお願いします。 ・電子黒板や学習用タブレットの使用状況が良い学校公開の際に実感した。 ・これまでの取り組み・今後の改善策の通りだと思う。展覧会のどの作品も素晴らしく、時間を掛けて丁寧に指導してくださっている。音楽祭での全員による校歌斉唱での一体感が素晴らしかった。 ・様々な観点から本区の特性を重視した資産する人材育成や保護者、地域参観のもと行った行事等で連携意識や達成感、自己肯定感の育成を図っていることは評価できる。 ・保護者及び生徒のアンケート結果が、80%以上の項目が5つ、70%以上の項目が2つというのは、学校の取り組みの成果が出ている証だと思います。更なる向上を目指して取り組んで頂きたいと思います。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づけを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していくための育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4					B	1	
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4					C		
お世話になった人に感謝する心を育む	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	〈保護者及び生徒対象のアンケート調査を実施〉 4：英語力、コミュニケーション能力、互いに尊重し合う心、持続可能な社会を形成する態度に関する肯定的な回答が80%以上 3：英語力、コミュニケーション能力、互いに尊重し合う心、持続可能な社会を形成する態度に関する肯定的な回答が70%以上 2：英語力、コミュニケーション能力、互いに尊重し合う心、持続可能な社会を形成する態度に関する肯定的な回答が60%以上 1：英語力、コミュニケーション能力、互いに尊重し合う心、持続可能な社会を形成する態度に関する肯定的な回答が60%未満	4：80%以上 3：70%以上 2：60%以上 1：60%未満	4	英語科では英会話指導の充実などALTを効果的に活用したコミュニケーション能力の育成、国際感覚の育成を図っている。また、大田区立高等学校連携外派遣事業の目的を踏まえ、地域の生活や文化の理解、並びに「英検アプリ（English 4skills）」他2つのアプリ等を授業等で効果的に活用するなど、外国語の習熟等が図れる実行的な取組を実施した。都の中学校スピーキングテストに向けた取組を活用するなどして、指導と評価の一体化を図る。 学年では、修学旅行や移動教室の事前学習、プロジェクトアドベンチャーなどの取組を通してグループのメンバーや他者についてを理解を深める活動を行ない、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合うの育成を図っている。 環境、人権、平和など世界や地球規模の課題を自分事として捉え、授業では、食品ロスや省エネついて考えたり、学校に通うどの生徒も安心して過ごせるよう校則を改定したりする活動を行っている。	A	11	・ヒアリング、スピーキングの指導も熱心にされている様子を何度も見ました。 ・校則の改訂にもチャレンジされていて素晴らしい。 ・英語の運用能力（会話、コミュニケーション、リスニング等）を総合的に向上させる教育が有効に行われていると思います。 ・英語の文献を読み解く力（文法力）も日本の強みです。また、外国語は実話だけではありませんで。このあたりもよろしくお願いします。 ・志茂田小学校にて「たこべったん」普及の学習をした児童が中学校でも継続して学べるよう中の連携を強めてほしい。 ・これまでの取組・今後の改善策の通りだと思う。 ・幅広い取組を実施して、区や都の事業に向けた学習指導を行い、育成を図った事業評価は適切である。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合うの育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4					B	1	
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3					C		
たくましい人間の基礎・基本を確実に身に付ける	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通して継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	〈保護者及び生徒対象のアンケート調査を実施〉 4：豊かな心、学力、生活習慣の確立、小中一貫に関する肯定的な回答が80%以上 3：豊かな心、学力、生活習慣の確立、小中一貫に関する肯定的な回答が70%以上 2：豊かな心、学力、生活習慣の確立、小中一貫に関する肯定的な回答が60%以上 1：豊かな心、学力、生活習慣の確立、小中一貫に関する肯定的な回答が60%未満	4：80%以上 3：70%以上 2：60%以上 1：60%未満	3	特別の教科道徳の授業では、内容項目に即しながら生徒が前向きに受けられるような授業の工夫に努めている。 三者面談時等で、各授業での学びの様子も踏まえて、生徒一人一人に合った学び方を指南する「学習カウンセリング」を実施した。大田区学習効果測定の平均正答率は昨年度とほぼ同様の結果だった。授業以外での自主的な学習については、定期考査や各種検定前の補習教室において、熱心に取り組む生徒が多かった。年間を通し、英語検定、漢字検定、数学検定を自校で実施することができた。若手教員の授業力向上を目的とした授業改善セミナーでは、主任教諭から若手教員へのOJTを実施し、実践的な教科指導力を磨くことができた。また、研修担当教員等を中心に、大田区教育推進校研究発表会等を参観し、他の教員への還元研修を実施した。 規則正しい生活習慣の確立へ向けて、「早寝・早起き・朝ごはん」チェックシート、タブレット端末を活用した健康チェック表の活用、保健委員会による睡眠の重要さに関する発表等、このような取組等を通して、生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行った。 また、保健体育科の授業や部活動等で、スポーツに親しむ態度の育成を図った。体力向上については、体育の授業や休み時間、部活動等で体力向上を目指して効果的に身体を動かす機会や場の設定をしていく。今後は、タブレット端末等を活用して、保護者と共同で、生徒が自発的に健康チェック表等に取り組み、規則正しい生活習慣を獲得できるように支援していく。また、給食だより等による食育や、「早寝・早起き・朝ごはん」の取組の充実を図っていく。 「令和5、6年度大田区研究推進校」（志茂田小学校との「小中一貫教育」として、研究テーマを「個性を開花させる児童・生徒の育成～自己有用感を育む異学年での交流・学習を通して～」とし、確かな学力、豊かな心、健やかな体（知・徳・体）の視点から、義務教育9年間を連続した教育課程として捉える試みや「小中一貫教育」の視点に立った取組を積極的に推進した。また、校区の他小学校2校との小中連携についても、目指すこども像を「自ら学び、ともに考え、自分や人を大切にし、心身ともに健康なこども」とし、「知」「徳」「体」それぞれに関連して10の分科会を設け、授業や取組を実施した。	A	10	・研究発表会を通して生徒の健やかな成長を肌で感じました。 ・先生方、学年軸、教科の軸、（生活指導等）担当の軸、等、多元的に連携され、オール志茂田中として　ご対応されるのは志茂田中の強み、魅力の素と認識しおります。”主要5教科目’のみでなく、技芸系の科目でも個性が活かされ尊重される学校であって欲しいと思います。（そうなっていると信じます。） ・平成23～24年度の小中4校一貫研究の取り組みも有益であったと思います。ご活用ください。 ・習熟度に応じた学習を引き続き進めてほしい。優等生だけではなく広く生徒に対して関心を持ってもらいたい。 ・小中連携について目指すことも後を掲げ「知」「徳」「体」を基本とし関連した授業や取組を実施した事は評価できる。「大田区研究推進校」として、取組を積極的に推進したにも関わらず自己評価が低い印象でした。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4					B	2	
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4					C		
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4					D		
学び続ける教師を目指す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	〈保護者及び生徒対象のアンケート調査を実施〉 4：授業改善、教職員の専門性、地域の特色、ウェルビーイングに関する肯定的な回答が80%以上 3：授業改善、教職員の専門性、地域の特色、ウェルビーイングに関する肯定的な回答が70%以上 2：授業改善、教職員の専門性、地域の特色、ウェルビーイングに関する肯定的な回答が60%以上 1：授業改善、教職員の専門性、地域の特色、ウェルビーイングに関する肯定的な回答が60%未満	4：80%以上 3：70%以上 2：60%以上 1：60%未満	3	教育活動の様々な場面で、タブレット端末を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を図りながら、生徒一人一人に合った多様かつ柔軟性のある指導を行い、多様な考えを持つ仲間とともに協働的に課題解決を図ることができる力の育成ができた。今後は、GIGAスクール構想の具現化へ向けて、ハード面ではタブレット端末の適正な管理と運用を行う。また、ソフト面では、教員へのICT活用研修機会のさらなる充実とICT推進リーダー等を中心に、活用事例を参考としながら、授業等での多様なアプリの活用促進を図る。 生徒対象の授業アンケート等を実施し、各教科で結果を分析し、授業改善プランを作成した。各教科において、教員がそれぞれの専門性を生かし、生徒一人一人の良さを見付け、どの生徒も学び合う教育活動を実現できるよう改善を重ねていく。また、本プランを基に「主体的に学習に取り組む態度」の育成に関して、教科を越えて教員同士が学び合う校内研修を実施した。 生徒の学校評価アンケートの「学習支援」等に係る項目では、保護者及び生徒ともに「概ね上が肯定的評価で、昨年度とほぼ同様の結果だった。部活動地域連携・地域移行に関するモデル校になり、部活動指導員が1名配置された。教員の負担が減り生徒に向き合う時間を確保している。今後もICTの化の推進、夏季休暇取得推進期間での長期休暇の推進等、学校における働き方改革に取り組んでいく。	A	9	・外部からは判断しづらいです。すいません。 ・（前述しましたが、）先生方のオール志茂田中としての連携が、力の源泉です。（と思います） ・生徒さんの部活動の地域連携、地域移行は近隣校とも必要に応じ相談されつつ進めてください。 ・生徒の自主性を尊重し校則などを民主的に変更・更新させている。教師力・指導力はもっと評価されてよいと考える。 ・部活動が活発な志茂田中学校であれば、学び方・調べ方を身につけ、自ら考え行動する生徒になると思います。 ・部活動の指導員を活用し、生徒と向き合う時間を確保してくださっている点が素晴らしい。 ・目標に対して教育活動の取組もよく、働き方改革にも努力が見受けられるが、自己評価が低い印象でした。 ・部活動地域連携・地域移行に関するモデル校となった事にも期待する。 ・引き続き目標達成に向け、生徒の育成にご尽力ください。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしつつ、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4					B	3	
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4：「おおむねあてはまる」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねあてはまる」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねあてはまる」と回答した。 1：「おおむねあてはまる」と回答した教員が60%未満であった。	2					C		
自分らしく生きる力を育む	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	〈保護者及び生徒対象のアンケート調査を実施〉 4：インクルーシブ教育、いじめの組織的対応、相談しやすい環境に関する肯定的な回答が80%以上 3：インクルーシブ教育、いじめの組織的対応、相談しやすい環境に関する肯定的な回答が70%以上 2：インクルーシブ教育、いじめの組織的対応、相談しやすい環境に関する肯定的な回答が60%以上 1：インクルーシブ教育、いじめの組織的対応、相談しやすい環境に関する肯定的な回答が60%未満	4：80%以上 3：70%以上 2：60%以上 1：60%未満	4	特別支援学級の生徒や本校に副籍を置く特別支援学校の生徒との交流を通して、相互理解を深め、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育を推進し、ノーマライゼーションの理念を実現しようとする態度を育成した。インクルーシブ教育システムの構築や生徒理解の向上、特別支援教育における教員の資質向上を図るため、週に一度の生活指導部会や校内委員会等を実施し、配慮を要する生徒への具体的な支援に関して情報共有し、特別支援教室をはじめ、関連機関とともに心身の支援した。 年度当初に1年生にはスクールカウンセラーによる全員面談、全校対象の生活アンケート、学校生活調査・学級集団調査（Web QU）を、また2ヶ月に1回「いじめ・悩みアンケート」を朝学活等にタブレット端末を使って実施し、課題の早期発見、即時対応に努めることができた。また、毎日の「一行日記」の取り組みを通じ、生徒一人一人の良さを見付け、成長を支えることで、生徒自身の自己肯定感向上を支援できた。このほか年3回いじめに関する調査（ふれあい月間）や、人権教育等を通していじめの未然防止や早期発見早期解決に努めている。 今後とも、カウンセラーやスクールソーシャルワーカー、子ども家庭支援センター、児童相談所等の関連機関により、多様な生徒のより健康を守る取組の充実に努め、いじめの未然防止や早期発見、早期対応等における教員の実践力を高めていきたい。	A	11	・学校全体が「いじめは絶対許さない」指導を徹底している。いじめ問題が生じた場合でも、いじめられた生徒の主体性・安全を重んじ、「早期対応」している。 ・特別支援学級でのキャリア教育（卒業生がお話をする授業）は、生徒も保護者もためになったと思います。 ・スクールカウンセラーの先生にお会いしたいという依頼をすぐに心良く受けて頂きました。先生のフットワークの軽さはほかでも生かされていると感じました。 ・自分らしくいきいきと生きるために学び、支援に対し、スクールカウンセラーによる全員面談や全校対象のアンケート等生徒一人一人に向き合いいじめや悩みに対応できている事に評価通切。 ・引き続き目標達成に向け、生徒の育成にご尽力ください。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4：「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満の教員が回答した。 2：60%以上80%未満の教員が回答した。 1：「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4					B	1	
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4					C		
心豊かな教育環境を整える	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	〈保護者及び生徒対象のアンケート調査を実施〉 4：問題解決力、他者との協働、情報活用能力に関する肯定的な回答が80%以上 3：問題解決力、他者との協働、情報活用能力に関する肯定的な回答が70%以上 2：問題解決力、他者との協働、情報活用能力に関する肯定的な回答が60%以上 1：問題解決力、他者との協働、情報活用能力に関する肯定的な回答が60%未満	4：80%以上 3：70%以上 2：60%以上 1：60%未満	4	生命（いのち）の安全教育を含め、安全教育プログラムを活用するなどして、生徒の危険を予測し回避する能力や他者や社会の安全に貢献できる資質や能力を育むため、生活安全・交通安全・災害安全等、安全教育の充実を図っている。学校や生徒等を取り巻く様々な安全上の課題を踏まえ、事故や場面に応じて、対応の在り方や留意点等の基本的な内容を示した学校の危機管理マニュアルを活用している。また、学校・地域の特性や実情に即し、常に危機管理マニュアルを改善・見直していく。セーフティ教室、薬物乱用防止教室等の防犯教育及び交通安全教室等を計画的に実施、防犯意識や安全に留意する意識を高めさせるとともに、安全に対する自己管理能力を育成した。 普段から教職員が児童に対し登校時間や下校指導、多様性や人権に配慮しつつ身だしなみに関する指導などに力を入れ、社会のルールを守ろうとする規範意識の向上を目指している。避難訓練では、自然災害が増加する中で、ただ知識を覚えるだけでなく、避難行動や災害への備えを実践的に学ぶことで、いざという時に役立つ力を身につけている。地震や火災の避難訓練では、正しい姿勢や身の守り方、避難経路の確認を行い、災害時にどう行動するべきかを実際に体験し身につけている。	A	11	・避難訓練での生徒達の姿にいつも小学生が感動しています。 ・様々な施策、ルールにはみな存在理由が有るはずです。生徒さんには「なぜ？」を理解して頂けるようしらいかと存じます。 ・壁平な公社と保有しているので、地域の防災拠点としての役割を果たしてほしい。 ・避難訓練（風水害・震災）は知識も必要で、いざ災害時にどう行動すべきかを実践で身につけること、「繰り返し」で体験することが大切です。 ・いざという時に役立つ力を身につけさせ、災害時にどう行動すべきか、実際に体験していることは重要であり、自己評価も適切である。 ・引き続き目標達成に向け、生徒の育成にご尽力ください。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4					B	1	
学地学個校域校別をコミュニティ・スクールを通して地域の人材を育成する	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	〈保護者及び生徒対象のアンケート調査を実施〉 4：学校・家庭・地域との連携・協働、健全育成、安全指導、家庭教育に関する肯定的な回答が80%以上 3：学校・家庭・地域との連携・協働、健全育成、安全指導、家庭教育に関する肯定的な回答が70%以上 2：学校・家庭・地域との連携・協働、健全育成、安全指導、家庭教育に関する肯定的な回答が60%以上 1：学校・家庭・地域との連携・協働、健全育成、安全指導、家庭教育に関する肯定的な回答が60%未満	4：80%以上 3：70%以上 2：60%以上 1：60%未満	4	令和6年1月よりコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入し、地域と学校が元気になる「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」への転換を図った。生徒の健全育成や安全指導、生活指導に係る取組を地域の方々に広く伝えし、共有することでより連携を取ることができた。学校と地域が育てたい生徒像や学校が抱える課題等を共有し、協議を重ね、教育活動をさらに充実させていく。学校関係者評価を活用し改善点を検討し、方針や方策を修正することにより、次年度の教育活動の改善につなげていく。本年度は、2学年全員が58の事業所に3日間の職場体験を実施した。来年度も多くの事業所に依頼をし、充実した体験になる2学期を進めていく。 また、学校施設の有効活用と地域利用の観点から、学校教育に支障のない範囲で学校施設の開放を行い、地域コミュニティの核としての学校づくりを推進する。今後とも、タブレット端末を活用した家庭学習の支援、補充教室の実施、教科横断的な視点での授業改善を進め、指導と評価の一体化を図っていく。 学校評価アンケートの「学校に対する満足度（活動状況公開・家庭学習支援・地域との連携等）への肯定的回答は教員は10割、保護者及び生徒は8割で、昨年度とほぼ同様の結果だった。 今後も、毎週の「学年だより」、毎月の「学校だより」を発行し、保護者からの意見等を取り入れながら、教育活動の充実に努める。	A	10	・CSとして更に特色が出せるといいですね。 ・”地域”も少子化で学校への関心が薄れ、高齢化で子ども（児童・生徒）を気づかう余裕が無くなっているという現実があります。 ・志茂田中は避難所や開放施設として、”地域”に必須の存在のはずです。このあたりのアピールも有効かと。 ・学区が下町なので町会などのつながりが強いという良い面や治安に不安があるという悪い面の両面合わせ持っている。行政・地域・学校はこれからも協力していくべき。 ・家庭環境により家庭学習に温度差がある。職場体験・教育活動公開・志茂田中だよりの配布等を実施して、教育活動の充実に努め、子供の育成を図られていて評価。 ・学校評価アンケートの実施後、結果を見つめ教育活動の充実に務めている事に納得。様々な観点から自己評価は適切である。 ・引き続き目標達成に向け、生徒の育成にご尽力ください。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4					B	2	
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4					C		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。